

第6回教科教育学コンソーシアムシンポジウム  
(@広島大学ハイブリッド)

2026.3.8

# ビッグアイデアと社会科教育

—インクルージョンと単元・授業づくりの方略に着目して—

堀田諭(埼玉学園大学)・早瀬博典(育英大学)

# 本発表の目的

- 近年のアメリカ社会科教育（全米社会科協議会）においてビッグアイデアはいかに取り上げられてきたか？
- ビッグアイデアを用いた単元・授業づくりとは？  
（インクルージョンの授業方略）
- ビッグアイデアを用いる際の留意点とは何か？  
（S・G・グラントらの中等および初等社会科における動向）

# 本発表における解答

- NCSS (全米社会科協議会) では、全米スタンダード運動への対抗措置として教師のためのカリキュラムスタンダードを開発した。2010年の改訂版では、ウィギンズ&マクタイの逆向き設計論との親和性をもたせてその中でビッグアイデアを用いた単元設計例を一つの提案とした。
- T・リントナーのインクルージョンの授業方略として、ビッグアイデアを用いた例がある。Compelling Questionを活用し、演繹と帰納を往還しながら、概念理解と個別支援を目指した方略である。
- 近年では、本質的な問いやビッグアイデアに懐疑的である。NCSSは、問いや探究を重視したC3フレームワークを開発している。そこでは、Compelling Questionを構想し、より論争的・政治的な探究が実践できるように、教師への支援がなされている。

# ビッグアイデアとは

(Grant & VanSledright, 2006; Grant & Gradwell, 2010)

- 教師が何をどのように教えるかを決定する手助けとなる**問い**や**一般化**のこと
- 多様な視点や解釈が可能であり、核心的で複雑な問題を中心に据えた教育単元を構築するもの

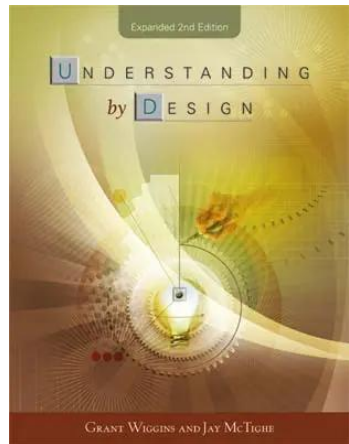
例) 建国の父たちのビジョンには、アメリカに住むすべての人々が含まれていたのか？  
ニューヨーク州の植民地化はすべての人にとって進歩をもたらしたのか？  
なぜ私たちはアフリカについて何も知らないのか？

機能①カリキュラムに共通する事実、概念、トピックを結びつける

機能②教師の指導方法の枠組みを提供する

機能③複数の視点や解釈を受け入れて内容を包括し、学習者の思考や理解を促進する

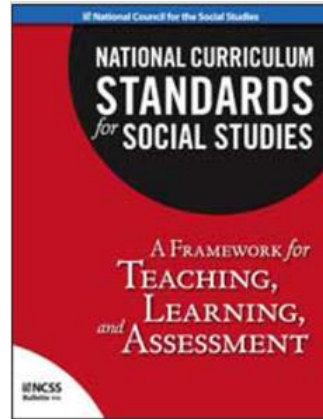
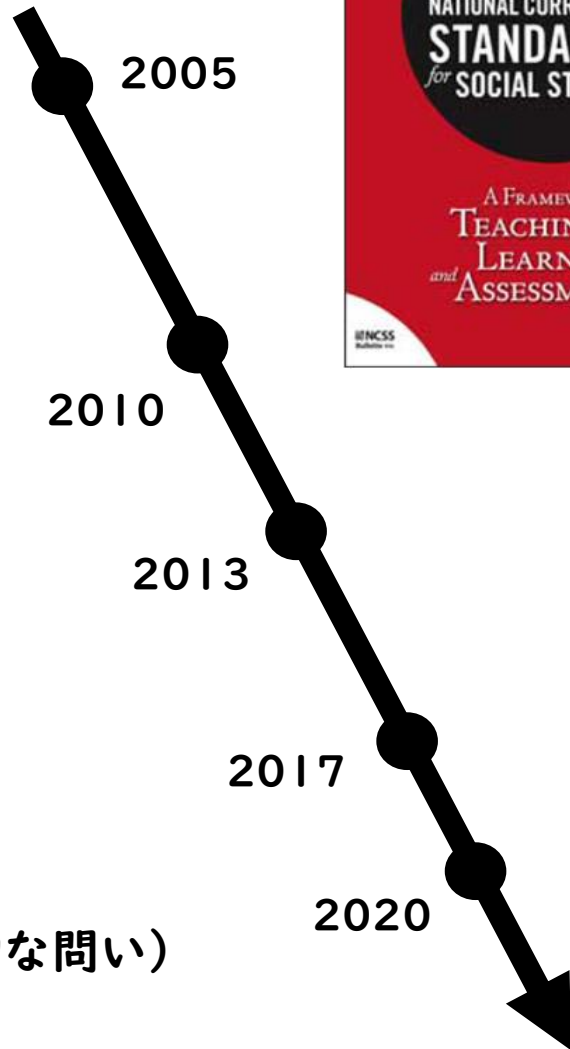
# 社会科教育とビッグアイデアの系譜



Wiggins & McTighe  
(2005)

<https://www.ascd.org/books/understanding-by-design-expanded-2nd-edition?variant=103055>

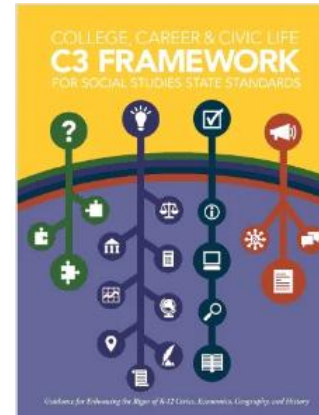
※逆向き設計論  
ビッグアイデア採用  
(永続的理解・本質的な問い)



National Council for the Social Studies (2010)  
社会科カリキュラムスタンダード

<https://www.socialstudies.org/standards/national-curriculum-standards-social-studies>

※ビッグアイデア採用 (一部、UbD採用)



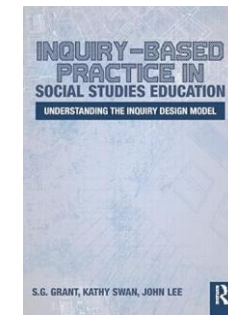
NCSS (2013)  
C3フレームワーク

<https://www.socialstudies.org/standards/c3>

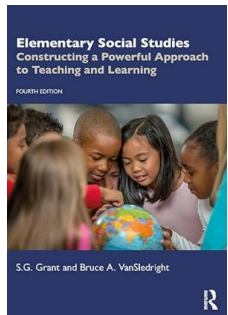
※コモンコア対応、探究・問い重視

※グラントら社会科教育学者の  
ビッグアイデア概念の認識転換

→問いに焦点化 (一般化↓)



<https://www.taylorfrancis.com/chapters/mono/10.4324/97818131517054-1/introduction-grant-kathy-swain-john-lee>



<https://www.taylorfrancis.com/books/mono/10.4324/9781003013808/elementary-social-studies-grant-bruce-vansledright>

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010) テーマ的ストランドの概要

テーマ的ストランド	概要	主な学問
1. 文化	文化と文化的多様性の研究	文化人類学
2. 時間、連続性、変化	過去とその遺産に関する研究	歴史学
3. 人々、場所、環境	人々、場所、環境に関する研究	地理学
4. 個人の発達とアイデンティティ	個人の発達とアイデンティティに関する研究	心理学
5. 個人、集団、制度	個人、集団、制度間の相互作用に関する研究	社会学
6. 権力、権威、統治	人々が権力、権威、統治の構造をいかに創造し、関わり、変革するかに関する研究	政治学
7. 生産、分配、消費	人々が商品やサービスの生産、分配、消費をいかに組織化するかに関する研究	経済学
8. 科学、技術、社会	科学、技術、社会の関係性に関する研究	学際的
9. グローバルな関係性	グローバルな関係性と相互依存に関する研究	学際的
10. 市民の理念と実践	民主共和制における市民としての理想、原則、実践に関する研究	学際的

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治【中学校】

目的 (purposes)	
<p>学習者は、政府の原則、プロセス、構造、制度についての理解を深め、様々な政府システムにおいて権力と権威がどのように獲得されているか、あるいは獲得されてきたかを考察する。民主主義国家の人々が、秩序と安全の確立、社会的正義の追求などの目的のために、集団を組織し、協力し、紛争を解決しようとする方法を学ぶ。また、非民主主義国における権力、権威、統治のシステムについて学び、これらを民主主義システムと比較対照する。学習者は、政治生活において直面する持続的な課題や社会問題に取り組むことで、より効果的な問題解決者・意思決定者となることができる。こうした持続的な課題は、個人の権利と責任、社会集団のニーズ、公正な社会の概念との間の動的な関係性を研究することで考察できる。</p>	
探究のための問い (Questions for Exploration)	プロセス (Processes)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・権力、権威、統治について問うべき重要な問いとは何か？</li> <li>・権力とは何か、そしてどのような状況下で権力の行使が許容されるのか？</li> <li>・権威とは何か、そして権威の範囲はどのように決定されるのか？</li> <li>・統治の目的と機能とは何か？</li> <li>・地域社会、州、国家において政府はどのように組織化されているか？</li> <li>・多数決の原則のもとで個人の権利はどのように保護されるか？</li> <li>・立憲民主主義における市民の権利と責任とは何か？</li> <li>・社会問題において、立憲民主主義の基本原則と価値の間にどのような対立が顕在化しているか？</li> <li>・集団や国家をまたいで、権力、権威、統治はどのように類似し、どのように異なるか？</li> </ul>	<p>学習者は以下のことができるようになる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、国家、世界における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・個人の権利と集団の権利が一般の福祉と関連して生じる持続的な問題を検証すること。</li> <li>・集団や国家が、統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に伴う緊張や対立にどのように対応するかを比較・分析すること。</li> <li>・集団や国家間の対立と協力を寄与する条件、行動、動機を分析・評価する。</li> <li>・技術が国家や集団間の対立と協力を寄与する役割、および権力・権威・統治システムへの貢献または阻害要因としての役割を評価する。</li> </ul>
知識 (Knowledge)	成果 (Products)
<p>学習者は以下のことを理解する：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利は、国の最高法規である合衆国憲法によって保障されていること。</li> <li>・アメリカ合衆国憲法、人民主権、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離、連邦主義など、アメリカ立憲民主主義の基盤となる基本理念。</li> <li>・立憲民主主義の基本的価値（例えば、公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳）。</li> <li>・合衆国とは異なる政治体制の思想と構造。</li> <li>・政府が市民のニーズや要望に応え、紛争を管理し、秩序と安全を確立する方法。</li> </ul>	<p>学習者は以下の方法で理解を示す：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公正な統治のための計画として教室の憲法を策定すること。</li> <li>・政府の対応を必要とする地域的または国家的課題の分析を可視化し、発表すること。</li> <li>・地域の公共的な課題や問題に対処する行動計画を策定し、実施すること。</li> <li>・政策文書を作成し、学校や地域社会における適切な場で発表し、その内容を擁護すること。</li> </ul>

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治【中学校】

①目的

②探究のための  
問い

④プロセス

③知識

⑤成果

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治 【知識】系統性

小学校 (Early Grades)	中学校 (Middle Grades)	高等学校 (High School)
<p>学習者は以下のことを理解する:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則や法律は秩序を維持し個人の権利を保護する役割を果たすこと。</li> <li>・アメリカ合衆国憲法、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離など、立憲民主主義の基盤となる基本理念。</li> <li>・<u>民主主義の基本的価値: 公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳。</u></li> <li>・<u>アメリカ合衆国政府の基本構成要素: 行政権、立法権、司法権。</u></li> <li>・政府が市民のニーズや要望に応える方法。</li> </ul>	<p>学習者は以下のことを理解する:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利は、国の最高法規である合衆国憲法によって保障されていること。</li> <li>・アメリカ立憲民主主義の基盤となる基本理念(アメリカ合衆国憲法、人民主権、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離、連邦主義など)。</li> <li>・<u>立憲民主主義の基本的価値(例えば、公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳)。</u></li> <li>・<u>合衆国とは異なる政治体制の思想と構造。</u></li> <li>・政府が市民のニーズや要望に応え、紛争を管理し、秩序と安全を確立する方法。</li> </ul>	<p>学習者は以下のことを理解する:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法の支配を尊重する必要性、および市民的不服従が正当化された事例の認識。</li> <li>・アメリカの立憲民主主義の基本原則(合衆国憲法、人民主権、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離、連邦主義を含む)。</li> <li>・<u>立憲民主主義の基本的価値(例えば、公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳)。</u></li> <li>・<u>合衆国と異なる政治システムのイデオロギー、政治文化、構造、制度、プロセスを理解し、これらを合衆国の政治システムと比較すること。</u></li> <li>・政府が市民のニーズと欲求を満たし、領土を統制し、紛争を管理し、秩序と安全を確立し、公正な社会に関する競合する構想を均衡させるためのメカニズム。</li> <li>・<u>政治学から導かれる思想、理論、探究方法。</u></li> </ul>

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治【プロセス】系統性

小学校 (Early Grades)	中学校 (Middle Grades)	高等学校 (High School)
<p>学習者は以下のことができるようになる:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、地域社会、国家における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・<u>個人や集団の権利と責任が、より広い社会との関係において生じる問題を考察すること。</u></li> <li>・統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に関連する対立に関わる問題を考察すること。</li> <li>・<u>集団や国家間の対立や協力を寄与する、あるいは協力を損なう、権力、権威、統治に関連する状況や行動を分析する。</u></li> </ul>	<p>学習者は以下のことができるようになる:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、国家、世界における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・<u>個人の権利と集団の権利が一般の福祉と関連して生じる持続的な問題を検証すること。</u></li> <li>・集団や国家が、統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に伴う緊張や対立にどのように対応するかを比較・分析すること。</li> <li>・<u>集団や国家間の対立と協力を寄与する条件、行動、動機を分析・評価する。</u></li> <li>・<u>技術が国家や集団間の対立と協力を寄与する役割、および権力・権威・統治システムへの貢献または阻害要因としての役割を評価する。</u></li> </ul>	<p>学習者は以下のことができるようになる:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、国家、世界における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・<u>個人の福祉に関連する個人や集団の権利、責任、役割、地位に関わる持続的な問題を検証すること。</u></li> <li>・集団や国家が、統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に伴う緊張や対立にどのように対応するかを比較・分析する。</li> <li>・<u>集団や国家間の対立と協力を寄与する状況、行動、動機を分析・評価する。</u></li> <li>・<u>技術が集団や国家間の対立と協力を寄与する通信、交通、情報処理、兵器開発などの分野における役割を評価する。</u></li> <li>・<u>政府が国内外で表明した理想や政策をどの程度達成しているかを評価する。</u></li> <li>・<u>政治学で用いられる探究手法を、権力、権威、統治に関する問題の研究に応用する。</u></li> </ul>

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治【小学校】

目的 (purposes)	
<p>学習者は、政府の原則、プロセス、構造、制度についての理解を深め、様々な政府システムにおいて権力と権威がどのように獲得されているか、あるいは獲得されてきたかを考察する。民主主義国家の人々が、秩序と安全の確立、社会的正義の追求などの目的のために、集団を組織し、協力し、紛争を解決しようとする方法を学ぶ。また、非民主主義国における権力、権威、統治のシステムについて学び、これらを民主主義システムと比較対照する。学習者は、政治生活において直面する持続的な課題や社会問題に取り組むことで、より効果的な問題解決者・意思決定者となることができる。こうした持続的な課題は、個人の権利と責任、社会集団のニーズ、公正な社会の概念との間の動的な関係性を研究することで考察できる。</p>	
探究のための問い (Questions for Exploration)	プロセス (Processes)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・権力について問うべき重要な問いとは何か？</li> <li>・権力と権威とは何か？</li> <li>・権力はどのように獲得されるのか？</li> <li>・集団内の個人と権威を持つ者の権利と責任とは何か？</li> <li>・政府とは何か？</li> <li>・地域社会、州、国家において政府はどのように組織化されているのか？</li> <li>・多数決の原則のもとで個人の権利はどのように保護されるのか？</li> <li>・立憲民主主義における市民の権利と責任とは何か？</li> </ul>	<p>学習者は以下のことができるようになる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、地域社会、国家における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・個人や集団の権利と責任が、より広い社会との関係において生じる問題を考察すること。</li> <li>・統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に関連する対立に関わる問題を考察すること。</li> <li>・集団や国家間の対立や協力に寄与する、あるいは協力を損なう、権力、権威、統治に関連する状況や行動を分析する。</li> </ul>
知識 (Knowledge)	成果 (Products)
<p>学習者は以下のことを理解する：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則や法律は秩序を維持し個人の権利を保護する役割を果たすこと。</li> <li>・アメリカ合衆国憲法、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離など、立憲民主主義の基盤となる基本理念。</li> <li>・民主主義の基本的価値：公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳。</li> <li>・アメリカ合衆国政府の基本構成要素：行政権、立法権、司法権。</li> <li>・政府が市民のニーズや要望に応える方法。</li> </ul>	<p>学習者は以下の方法で理解を示す：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公正な教室を支える規則リストを作成する。</li> <li>・権限を持つ立場の人々と協力する必要がある学校や地域の問題について、その説明と可能な解決策を準備し発表する。</li> <li>・地域の課題や問題に対処する行動計画を作成し実施する。</li> <li>・学校、地域、州、または国の統治システムを説明する図を作成する。</li> </ul>

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治【中学校】

目的 (purposes)	
<p>学習者は、政府の原則、プロセス、構造、制度についての理解を深め、様々な政府システムにおいて権力と権威がどのように獲得されているか、あるいは獲得されてきたかを考察する。民主主義国家の人々が、秩序と安全の確立、社会的正義の追求などの目的のために、集団を組織し、協力し、紛争を解決しようとする方法を学ぶ。また、非民主主義国における権力、権威、統治のシステムについて学び、これらを民主主義システムと比較対照する。学習者は、政治生活において直面する持続的な課題や社会問題に取り組むことで、より効果的な問題解決者・意思決定者となることができる。こうした持続的な課題は、個人の権利と責任、社会集団のニーズ、公正な社会の概念との間の動的な関係性を研究することで考察できる。</p>	
探究のための問い (Questions for Exploration)	プロセス (Processes)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・権力、権威、統治について問うべき重要な問いとは何か？</li> <li>・権力とは何か、そしてどのような状況下で権力の行使が許容されるのか？</li> <li>・権威とは何か、そして権威の範囲はどのように決定されるのか？</li> <li>・統治の目的と機能とは何か？</li> <li>・地域社会、州、国家において政府はどのように組織化されているか？</li> <li>・多数決の原則のもとで個人の権利はどのように保護されるか？</li> <li>・立憲民主主義における市民の権利と責任とは何か？</li> <li>・社会問題において、立憲民主主義の基本原則と価値の間にどのような対立が顕在化しているか？</li> <li>・集団や国家をまたいで、権力、権威、統治はどのように類似し、どのように異なるか？</li> </ul>	<p>学習者は以下のことができるようになる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、国家、世界における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・個人の権利と集団の権利が一般の福祉と関連して生じる持続的な問題を検証すること。</li> <li>・集団や国家が、統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に伴う緊張や対立にどのように対応するかを比較・分析すること。</li> <li>・集団や国家間の対立と協力を寄与する条件、行動、動機を分析・評価する。</li> <li>・技術が国家や集団間の対立と協力を寄与する役割、および権力・権威・統治システムへの貢献または阻害要因としての役割を評価する。</li> </ul>
知識 (Knowledge)	成果 (Products)
<p>学習者は以下のことを理解する：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利は、国の最高法規である合衆国憲法によって保障されていること。</li> <li>・アメリカ合衆国憲法、人民主権、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離、連邦主義など、アメリカ立憲民主主義の基盤となる基本理念。</li> <li>・立憲民主主義の基本的価値（例えば、公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳）。</li> <li>・合衆国とは異なる政治体制の思想と構造。</li> <li>・政府が市民のニーズや要望に応え、紛争を管理し、秩序と安全を確立する方法。</li> </ul>	<p>学習者は以下の方法で理解を示す：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公正な統治のための計画として教室の憲法を策定すること。</li> <li>・政府の対応を必要とする地域的または国家的課題の分析を可視化し、発表すること。</li> <li>・地域の公共的な課題や問題に対処する行動計画を策定し、実施すること。</li> <li>・政策文書を作成し、学校や地域社会における適切な場で発表し、その内容を擁護すること。</li> </ul>

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010)

## テーマ6 権力、権威、統治【高等学校】

目的 (purposes)	
<p>学習者は、政府の原則、プロセス、構造、制度についての理解を深め、様々な政府システムにおいて権力と権威がどのように獲得されているか、あるいは獲得されてきたかを考察する。民主主義国家の人々が、秩序と安全の確立、社会的正義の追求などの目的のために、集団を組織し、協力し、紛争を解決しようとする方法を学ぶ。また、非民主主義国における権力、権威、統治のシステムについて学び、これらを民主主義システムと比較対照する。学習者は、政治生活において直面する持続的な課題や社会問題に取り組むことで、より効果的な問題解決者・意思決定者となることができる。こうした持続的な課題は、個人の権利と責任、社会集団のニーズ、公正な社会の概念との間の動的な関係性を研究することで考察できる。</p>	
探究のための問い (Questions for Exploration)	プロセス (Processes)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・権力、権威、統治について問うべき重要な問いとは何か？</li> <li>・政治的権力と権威の行使が正当化される状況とは何か？</li> <li>・権力と権威の適切な範囲と限界とは何か？</li> <li>・政府の規範、原則、目的、機能とは何か？</li> <li>・多数決の原則のもとで、個人の権利はどのように保護され、社会正義はどのように促進されるのか？</li> <li>・立憲民主主義の基本原則と価値観の間にはどのような矛盾が存在するのか？</li> <li>・立憲民主主義における市民の権利と責任は、他の統治形態におけるものとどのように類似し、どのように異なるのか？</li> </ul>	<p>学習者は以下のことができるようになる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、国家、世界における権力、権威、統治に関する問いを投げかけ、その答えを見出すこと。</li> <li>・個人の福祉に関連する個人や集団の権利、責任、役割、地位に関わる持続的な問題を検証すること。</li> <li>・集団や国家が、統一と多様性の豊かさ、および統一と多様性に伴う緊張や対立にどのように対応するかを比較・分析する。</li> <li>・集団や国家間の対立と協力を寄与する状況、行動、動機を分析・評価する。</li> <li>・技術が集団や国家間の対立と協力を寄与する通信、交通、情報処理、兵器開発などの分野における役割を評価する。</li> <li>・政府が国内外で表明した理想や政策をどの程度達成しているかを評価する。</li> <li>・政治学で用いられる探究手法を、権力、権威、統治に関する問題の研究に応用する。</li> </ul>
知識 (Knowledge)	成果 (Products)
<p>学習者は以下を理解する：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法の支配を尊重する必要性、および市民的不服従が正当化された事例の認識。</li> <li>・アメリカの立憲民主主義の基本原則（合衆国憲法、人民主権、法の支配、三権分立、権力分立と相互牽制、少数派の権利、政教分離、連邦主義を含む）。</li> <li>・立憲民主主義の基本的価値（例えば、公共の利益、自由、正義、平等、個人の尊厳）。</li> <li>・合衆国と異なる政治システムのイデオロギー、政治文化、構造、制度、プロセスを理解し、これらを合衆国の政治システムと比較すること。</li> <li>・政府が市民のニーズと欲求を満たし、領土を統制し、紛争を管理し、秩序と安全を確立し、公正な社会に関する競合する構想を均衡させるためのメカニズム。</li> <li>・政治学から導かれる思想、理論、探究方法。</li> </ul>	<p>学習者は以下の方法で理解を示す：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる憲法を比較対照し、様々な統治形態の分析を記述する。</li> <li>・政府の関与を伴う持続的な公共問題や社会問題を分析する論文を作成し発表する。</li> <li>・地域の公共問題や課題に対処する行動計画を作成し実施する。</li> <li>・公共政策論文を作成し、学校や地域社会における適切な場で発表・擁護するためのメディア発表を準備する。</li> </ul>

## 目的 (purposes)

過去の研究とその遺産を通じて、学習者は過去の制度、価値観、信念を考察し、歴史的探究と解釈のスキルを身につけ、重要な歴史的出来事や発展が現代世界をいかに形成してきたかを理解する。

### 探究のための問い (Questions for Exploration)

- ・歴史はなぜ重要なのか？
- ・過去について問うべき重要な問いとは何か？
- ・過去に何が起こり、それをどう知るのか？
- ・人々が過去の重要性について判断を異にする理由と経緯は？
- ・様々な歴史的証拠の有用性と信頼性の程度をどう評価するか？
- ・歴史的記述を構築する際に、過去の重要な出来事、文書、日付、人物をどのように活用するか？
- ・過去と現在にはどのような繋がりがあのか？
- ・社会的、文化的、政治的、経済的システムの起源と影響は何か？
- ・歴史において重要な出来事や転換点とは何か、その理由は？

### プロセス (Processes)

- 学習者は以下のことができるようになる：
- ・歴史上の主題について問いを立て、考えられる答えを予測し、歴史的探究方法とリテラシー技能を用いて資料を特定・整理・分析・解釈し、裏付けのある発見を提示する。
  - ・文書、手紙、日記、地図、教科書、写真、その他の資料など、過去を再構築するための一次資料と二次資料を特定し活用する。
  - ・一次資料(文書、手紙、遺物、証言など)と二次資料を多様に用いて、過去の時代、出来事、問題を調査・分析する。主張の根拠となる証拠を検証・評価し、資料の有用性と信頼性の程度を評価して、支持できる解釈を構築する。
  - ・過去の価値観・信念・制度が、当時の重要な歴史的決断や発展に与えた影響を評価する。
  - ・歴史的探究の手法を用いて、現代の重要課題に対し政策を提案し行動を起こす、責任ある市民としての情報に基づいた判断を行う。

### 知識 (Knowledge)

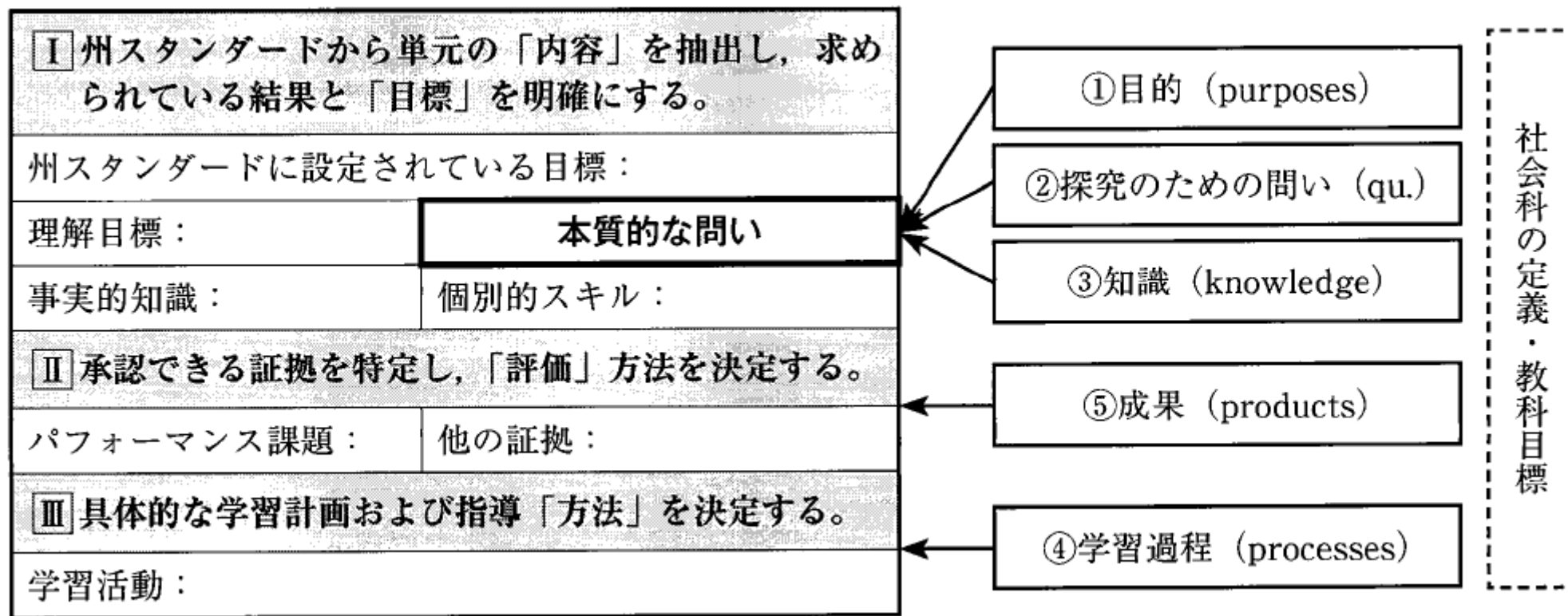
- 学習者は以下のことを理解する：
- ・過去の研究は、共同体、国家、そして世界の歴史を表象するものであること。
  - ・年代順、因果関係、変化、対立、複雑性、多様な視点、原因と結果といった概念。
  - ・過去について学ぶには史料の解釈が必要であり、多様な史料を用いることで過去をよりバランスの取れた解釈記録として捉える可能性が生まれること。
  - ・同一の出来事に対する歴史的解釈は、多様な史料からの矛盾する証拠、国家的・文化的視点、研究者の立場といった要因によって異なる可能性があること。
  - ・主要な歴史的時代区分と、文化内および文化間における変化のパターン(例：古代文明の興亡、技術の発展、近代国家の台頭、植民地体制の確立と崩壊)。
  - ・社会・文化・政治・経済システムの起源と影響。
  - ・過去における主要人物・集団・出来事の貢献と現代への影響。
  - ・民主主義の理念と原則の歴史、およびそれらが文書・遺物・象徴にどのように表れているか。
  - ・地域、州、国家、世界の歴史に対する社会的、地理的、経済的、文化的要因の影響。

### 成果 (Products)

- 学習者は以下の方法で理解を示す：
- ・口頭、文書、視覚的、電子形式で調査結果を発表する。
  - ・ロールプレイを通じて歴史的イベントを再現し演じる。
  - ・歴史的時代やイベントを表現するクラス博物館向けのプロジェクトや展示を開発する。
  - ・立場を支持する歴史的証拠を提示する論説を書く。
  - ・近年の歴史的出来事に関わった人物へのインタビューを実施し、それらの口述歴史に基づく展示を開発する。
  - ・重要な歴史的時代を象徴する一連の出来事を図解付き年表として作成する。
  - ・一次資料と二次資料に基づく出来事や発展の史的記述を作成し、それらに対する異なる視点を特定する。
  - ・一次資料と二次資料に基づく論文を作成し、過去の重要な国家的発展が地域住民に与えた影響を明らかにする。

# NCSSスタンダード(2010) テーマ2 時間、連続性、変化【中学校】

# NCSSカリキュラムスタンダード(2010) の単元設計例



新版(2010)

旧版(1994)

Figure 1: Using the NCSS National Curriculum Standards for Social Studies: A Framework for Teaching, Learning, and Assessment To Meet State Social Studies Standards

State Standards Referenced		NCSS Standards Referenced – Theme 10: Civic Ideals and Practices (High School)			
Sample State Standard	Big Idea	Questions for Exploration	Knowledge – learners will understand:	Processes – learners will be able to:	Products – learners demonstrate understanding by:
Students will understand the political principles underlying the U.S. Constitution and Bill of Rights.	Students will understand that the rights and responsibilities of American citizenship guaranteed by the U.S. Constitution and Bill of Rights call for continued civic action by individuals and groups to sustain and improve our democratic society.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What questions are important to ask about civic ideals and practices?</li> <li>• What role do individuals, groups, and institutions play in strengthening democratic ideals and practices?</li> <li>• How do citizens balance personal interests, needs, and talents with civic responsibility and working for the common good?</li> <li>• What is the role of the citizen in the community, nation, and as a member of the world community?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Concepts and ideals such as: human dignity, social justice, liberty, equality, inalienable rights, responsibilities, civil dissent, citizenship, majority and minority rights, the common good, and the rule of law.</li> <li>• Scholarly interpretations of key documents that define and support democratic ideals and practices (e.g., the U.S. Declaration of Independence, the U.S. Constitution, the Declaration of Sentiments in Seneca Falls, New York, the Gettysburg Address, the Letter from Birmingham Jail; and international documents such as the Declaration of the Rights of Man, and the Universal Declaration of the Rights of Children);</li> <li>• That seeking multiple perspectives is required in order to effectively grasp the complexity of issues involving civic ideals and practices.</li> <li>• The importance of becoming informed as the basis for thoughtful and positive contributions through civic action.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Identify examples of civic ideals and practices throughout history and in a variety of cultural settings.</li> <li>• Research primary and secondary sources to make decisions and to propose solutions to selected civic issues in the past and present.</li> <li>• Identify, seek, describe, and evaluate multiple points of view about selected issues, noting the strengths, weaknesses, and consequences associated with holding each position.</li> <li>• Evaluate the degree to which public policies and citizen behaviors reflect or foster their stated ideals.</li> <li>• Participate in persuading, compromising, debating, and negotiating in the resolution of conflicts and differences.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Writing an informed personal position on a civic issue based on reasoned arguments developed by consulting multiple sources.</li> <li>• Using a variety of media (e.g., a documentary film, PowerPoint presentation, or gallery of project posters) to report findings about an issue from surveys, debates, petitions.</li> <li>• Writing a plan of action in collaboration with others to strengthen the “common good,” after weighing possible options regarding a specific issue of public concern.</li> </ul>
<b>Snapshot of Practice</b>					
<p>Teacher responds to a real scenario or creates one regarding musical lyrics and language in a popular song that is considered offensive to females.</p> <p>The teacher guides students through an exercise to understand the rights and responsibilities surrounding the First Amendment. “Are limits on freedom of expression appropriate in our democratic society?”</p> <p>Students examine historical Supreme Court decisions that have influenced subsequent judicial rulings in First Amendment cases and review current news articles to analyze recent examples. Working in groups, students develop presentations that identify three First Amendment issues and the pro and con arguments for allowing or limiting freedom of expression. Students organize and conduct a public community forum to illustrate the key points of the various perspectives. While no consensus may be reached at the forum, a goal is to create an informed public discussion of the various issues. To assess student learning, students are asked to create a political cartoon and written assignment explaining the pros and cons of a particular issue and why it is important for individuals and groups to continue to seek understanding and engage in civic action to protect the freedoms and rights guaranteed in the Constitution and Bill of Rights as responsible citizens.</p>					

Hereczog (2010)による  
 州スタンダードに基づく解説事例  
 (州スタンダード×テーマ10 市民の理念と実践)

Figure 1: Using the NCSS National Curriculum Standards for Social Studies: A Framework for Teaching, Learning, and Assessment to Meet State Social Studies Standards

State Standards Referenced		NCSS Standards Referenced – Theme 10: Civic Ideals and Practices (High School)			
Sample State Standard	Big Idea	Questions for Exploration	Knowledge – learners will understand:	Processes – learners will be able to:	Products – learners demonstrate understanding by:
<p>生徒は、アメリカ合衆国憲法と権利章典の根底にある政治的原則を理解する。</p>	<p>生徒は、合衆国憲法および権利章典によって保障されるアメリカ市民権の権利と責任が、民主主義社会を維持し改善するために個人や集団による継続的な市民的行動を必要としていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の理想と実践について、どのような問いが重要か？</li> <li>民主主義の理想と実践を強化する上で、個人、集団、制度はどのような役割を果たすか？</li> <li>市民は、個人の利益、必要性、才能と、市民的責任や公益のための活動とを、どのように両立させるか？</li> <li>地域社会、国家、そして世界共同体の一員としての市民の役割とは何か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊厳、社会的正義、自由、平等、不可侵の権利、責任、市民的不服従、市民権、多数派と少数派の権利、公共の利益、法の支配といった概念や理念。</li> <li>民主主義の理想と実践を定義し支える主要文書(例: アメリカ独立宣言、アメリカ合衆国憲法、ニューヨーク州セネカフォールズにおける「所感の宣言」、ゲティスバーグ演説、バーミングハム刑務所からの手紙、および「人権宣言」や「児童の権利に関する宣言」などの国際文書)の学術的解釈。</li> <li>市民的理想と実践に関わる問題の複雑性を効果的に把握するには、多様な視点の探求が不可欠であること。</li> <li>思慮深く積極的な市民活動を通じた貢献の基盤として、情報に基づいた理解を深めることの重要性。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史上および様々な文化的背景における市民的理想と実践の事例を特定する。</li> <li>一次資料と二次資料を調査し、過去および現在の特定の市民問題に対する意思決定と解決策の提案を行う。</li> <li>選定された問題について複数の視点特定・探索・記述・評価し、各立場の利点、弱点、帰結を考察する。</li> <li>公共政策と市民行動が、表明された理想をどの程度反映・促進しているかを評価する。</li> <li>対立や相違の解決において、説得・妥協・討論・交渉に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の情報源を参照して論理的に展開した主張に基づき、市民的問題に関する自身の立場について根拠をもって記述する。</li> <li>調査、討論、請願活動を通じて得られた問題に関する知見を、多様な媒体(例: ドキュメンタリー映画、パワーポイント発表、プロジェクトポスター展示)を用いて報告する。</li> <li>公共的な関心事となる特定の問題について、可能な選択肢を検討した上で、他者と協力して「公益」を強化するための行動計画を記述する。</li> </ul>
<p>Snapshot of Practice</p> <p>教師は、女性を侮辱すると見なされる人気曲の歌詞や表現に関する実際の事例、または自作の事例を用いて対応する。</p> <p>教師は生徒を導き、合衆国憲法修正第一条(言論の自由)にまつわる権利と責任を理解させる演習を行う。「民主主義社会において、表現の自由への制限は適切か？」</p> <p>学生は、憲法修正第一条に関する判例に後続の司法判断に影響を与えた最高裁判決を検証し、最近の事例を分析するため時事記事を精査する。グループ作業で、表現の自由を認めるか制限するかに関する三つの憲法修正第一条上の問題点と賛否両論を提示するプレゼンテーションを作成する。学生は多様な主要な視点を示すため、公開コミュニティフォーラムを企画・実施する。フォーラムで合意に至らなくとも、様々な問題について情報に基づいた公の議論を創出することが目標である。学習成果の評価として、学生は特定の課題の賛否両論を説明する風刺漫画とレポートを作成する。そこでは、憲法と権利章典で保障された自由と権利を保護するため、責任ある市民として個人や集団が理解を深め続け、市民活動に取り組むことの重要性を論じる。</p>					

Herczog (2010) による  
 州スタンダードに基づく解説事例  
 (州スタンダード×テーマ10 市民の理念と実践)

# C3フレームワーク(2013)

- NCSS (2013). *The college, career, and civic life (C3) framework for social studies state standards.*
  - 全米のコモンコアステイトスタンダードをめぐる教育改革への対応
  - 「ビッグアイデア」と「本質的な問い」に疑義 (Grant, et al., 2017)
- 核心的な問い (Compelling Question) を中心とした探究過程へ

# C3フレームワーク(2013)と NCSSカリキュラムスタンダード(2010)との関連

C3フレームワーク「探究過程」 (Inquiry Arc)の4つの次元	NCSSカリキュラムス タンドラード: 期待される学習	強化されたC3フレームワークの貢献
1. 問いを立て、調査を計画する	探究のための問い	NCSS基準に基づいて、探究スキルを育成するための核心的な問い (Compelling Question) とそれを支える問い (Supporting Question) を構築するプロセスに焦点を当てる。
2. 学問的概念と手法を適用する	知識: 学習者が理解すべきこと	生徒の学問的知識と概念を意図的かつ意味のある方法で育成する。
3. 証拠を収集、評価、活用する	プロセス: 学習者ができるようになること	NCSS国家基準の実施要件に対応し、情報源の収集・評価および証拠に基づく主張の構築スキル育成に重点を置く。情報テキストから証拠を引き出し結論を導くというコモンコアステイトスタンダードの目標と意図的に整合させる。
4. 結論を伝え、知的な行動をとる	成果: 学習者が理解を示す方法	コモンコアステイトスタンダードに記述されている通り、情報を言い換える、要約を作成する、論証を行う、結論を伝える、学習内容を応用するといったスキルを育成する。

# C3フレームワーク(2013)の探究フォーマット

Compelling Question		
Standards and Practices		
Staging the question		
Supporting Question 1	Supporting Question 2	Supporting Question 3
Formative Performance Task	Formative Performance Task	Formative Performance Task
Featured Sources	Featured Sources	Featured Sources
Summative Performance Task	Argument:	
	Extension:	
Taking Informed Action		

(Grant, et al., 2017, 109)

## ★ ビッグアイデアの3つの特徴



## 👁️ インクルージョンの定義

- すべての学習者を包摂し、差異を尊重し、  
個々のニーズに応える教育システム

IDEA法 / Salamanca声明の理念に基づく「一般教育へのアクセス」

## ⚠️ 社会科における学習バリア

- × 言語依存度が高く、抽象概念（民主主義、公正など）が多い
- × 複雑な資料読解による認知負荷の高さ
- × 学習者間の文化的・経験的な前提知識の格差

社会科のビッグアイデアは  
インクルージョンに寄与する特性がある  
→代表的論者、T. Lintnerを参照

## 🚩 事例分析のねらい

T. Lintnerの方略としての「ビッグアイデア」を  
以下の三つの視点から分析し、社会科における特性を明らかにする

1 方法論的視点  
UDL / モディフィケーション / 概念基盤型学習

2 個別支援の視点  
LD等への配慮と学習スタイルの適合

3 教師の役割の視点  
ゲートキーパー / カリキュラムデザイナー / 促進者

### Research Questions

ビッグアイデアは方法論的に概念形成バリアをどう低減するか？  
インクルージョンを実現する社会科ビッグアイデアの原理とは？  
日本の「中核的な概念」とどう接続可能か？

# 社会科の「ビッグアイデア」とは？

## 定義

問いと一般化の往還により、学習者が自分なりの「概念」を構成する授業方略

### 3つの構成原理

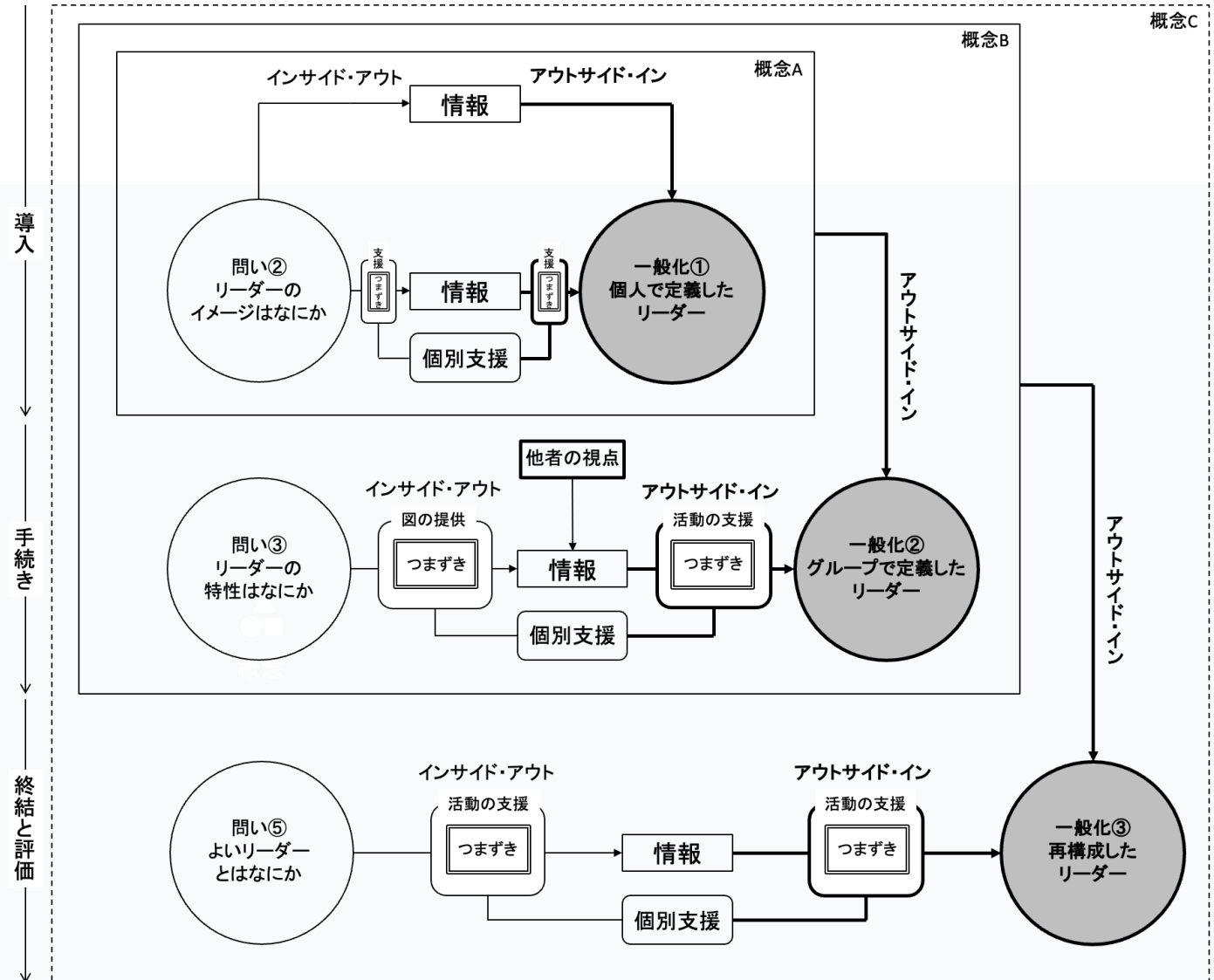
？ 問いと一般化の方法

個別支援

教師の役割変容

#### Expected Outcomes

- ✓ 知識の転移性獲得
- ✓ 認知負荷の構造化
- ✓ 主体的探究の促進



# 視点① 方法論：インサイド・アウト／アウトサイド・イン

## ❖ インサイド・アウト

演繹

問いから始まる演繹的アプローチ

1 切実な問い（CQ）を設定



2 必要な情報・視点を特定する



3 問いから推論・仮説形成



4 証拠に基づく主張を構築



### Example Case

Q: 良いリーダーシップとは？

問いを出発点に、大統領の決断を調査して要素を定義づける。

## ❖ アウトサイド・イン

帰納

情報から概念を導く帰納的アプローチ

1 具体的事例・データを収集



2 類似・相違からパターン発見



3 一般化（Generalization）を言語化



4 「概念」を命名・精緻化

### Example Case

Case: 歴代大統領の行動

複数事例から共通項を抽出し、「権力と責任」の概念を導く。

# 視点② 個別支援：全員で概念形成に到達するために

## ❗想定される主なつまずき

- ① 複雑な言語理解  
抽象的な概念や長文の読解が困難
- ② 協働場面での遂行機能  
役割分担やコミュニケーションの維持が困難

## 📖UDLの視点

「特別な支援」ではなく、最初から授業デザインに組み込む「ユニバーサルデザイン」として計画する。

- ✓ 学びのバリアフリー化

## 👁️ 視覚的支援・マルチモーダル

- ✓ グラフィック・オーガナイザー（思考整理図）
- ✓ 概念マップ・ヒント図の提示
- ✓ 画像・動画・音声・読み上げ機能の活用

## 🗣️ 言語の足場かけ（Scaffolding）

- ✓ 重要語句リスト・用語集の事前配布
- ✓ 指示を短く分割して伝える
- ✓ 発言・記述のためのプロンプト・フレーム

## 👥 協働のファシリテート

- ✓ 明確な役割付与（記録・発表・計時など）
- ✓ ターンテイキング（発言順）のルール化
- ✓ グループ活動チェックリストの活用

## 📝 評価の配慮と柔軟性

- ✓ 表現手段の選択肢（書く・話す・描く）
- ✓ 評価基準（ルーブリック）の可視化
- ✓ 思考プロセスの評価・再提出機会の保証

# 視点③ 教師の役割変容

## 教師の役割

学習デザイナー

ファシリテーター

形成的評価者

知識伝達者ではなく、探究と概念形成を支える伴走者としての役割が求められる。

## ビッグアイデア構想の基礎

個人的に関心をもてる問い 生徒自身が「なぜ？」と思える切実な問いからスタートする。

既有知識・経験の接続 「何を知っているか」「何を経験してきたか」を把握し、そこから概念へ橋渡しする。

創造性の尊重 答えは一つではない。多様な表現や独自の見解を許容し、評価する。


## 実践の要点

思考の可視化 シンキングツール等を用いて、見えない思考プロセスを共有可能な形にする。

小ステップの足場かけ 「ミニ・レクチャー」と「ミニ評価」を細かく繰り返し、理解度に応じて軌道修正する。

一般化の言語化と転移 クラス全体で「まとめ」を行い、他の文脈（現在の社会問題など）への応用を促す。

## 求められる学級文化

 心理的安全性：失敗を恐れず発言できる場

 多様性の尊重：互いの差異をリソースとする

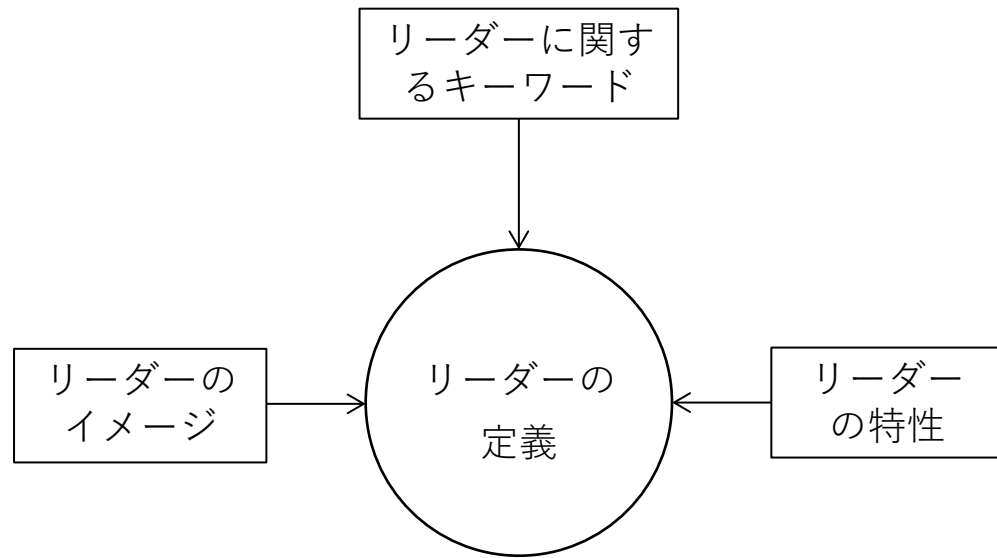
 学習者エージェンシー：自ら学びを調整する

# 実践への応用：設計手順とマクロ・ユニット・レッスンレベルの具体例

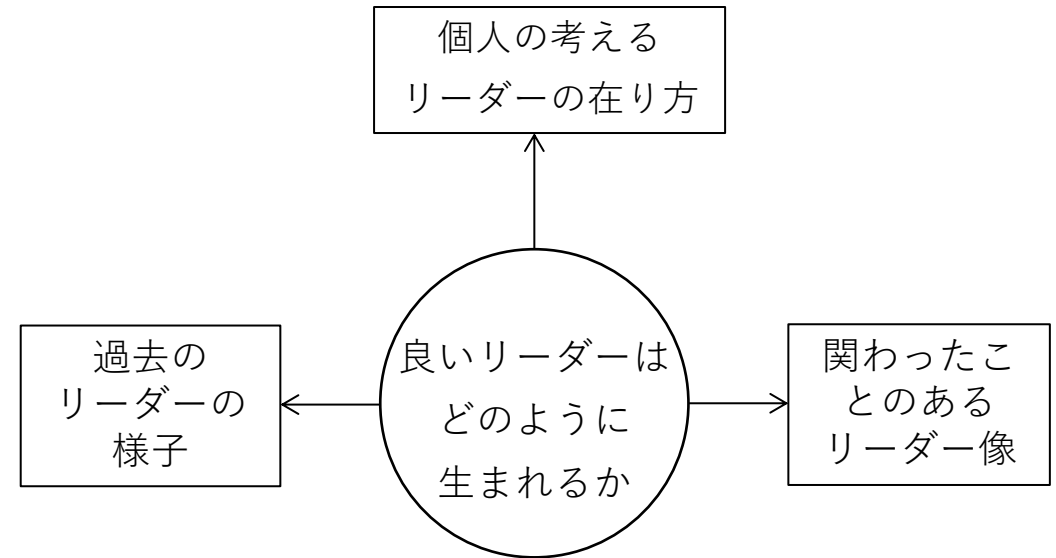
段階	学年	科目	従来注目されたビッグアイデア		Lintnerが強調するビッグアイデア		
			マクロレベル	ユニットレベル	レッスンレベル		
			包括テーマ	単元テーマ	内容に基づく問い		一般化する「概念」
小学校	1	地理	探究と参画	地図のスキル	1. 進むべき方角をどのように調べればよいか	方角	
	2	経済		商品とサービス	1. 私たちの消費物は全て販売されているものか 2. いつまでも消費をし続けることはできるか	消費	
	2	公民		政治の役割	1. 重要な意思決定はどのように行われるのか	政治	
	5	歴史		西進の理由	1. 「金持ちになる」機会が限られるならば、なぜ人々は鉱山を掘り続けるのか 2. あなたなら「ゴールド・ラッシュ」に乗じて西方に移住したか 3. 誰が金持ちになったか。その理由はスキルか、または運か	移住	
中学校	6	公民	参画と表現	古代のギリシャ	1. 民主主義社会では誰が投票権をもつのか、なぜ全員がもたないのか 2. 誰が「投票できる人」を決めるのか 3. なぜ民主主義は必ずしも民主的ではないのか	民主主義	
	7	地理		地理の5大テーマ	1. 人は環境にどのような影響を与えているのか 2. 人が環境を変化させることは正しいのか	環境	
	7-8	経済		アメリカの経済システム	1. なぜ起業家は従来の企業と異なる企業形態を選択するのか	企業	
	8	歴史		アメリカの革命	1. 「本当」に先に銃を撃ったのは誰なのか 2. 史料の矛盾は歴史家にとって何を意味するか 3. 歴史が偏向し不正確になるのはなぜか 4. 過去に起こったことをどうやって知るのか	戦争	
高等学校	9-12	経済	自己決定	アメリカの市場経済	1. 商品やサービスの価格は何によって決まるか 2. 需要と供給は生活にいかなる影響を与えるか	需給	
	9-12	地理		人口	1. 人口ピラミッドは人口に影響する要因を解釈する際に便利なツールか 2. 人口年齢層の分布が変化するのはなぜか	人口	
	9-12	歴史		先住民の大河文明	1. 古代文明はどのような社会構造を有したか 2. なぜ古代メソポタミアで文明が発展したか	文明	
	9-12	公民		プレジテンシー	1. よいリーダーとはなにか 2. 偏見は優れたリーダーの特性にどのような影響を与えるか 3. リーダーの認識が変わったか 4. どうすればリーダーとして参画できるか	リーダー	

# 社会科におけるビッグアイデアの具体例（プレジデンシャル・リーダーの問い）

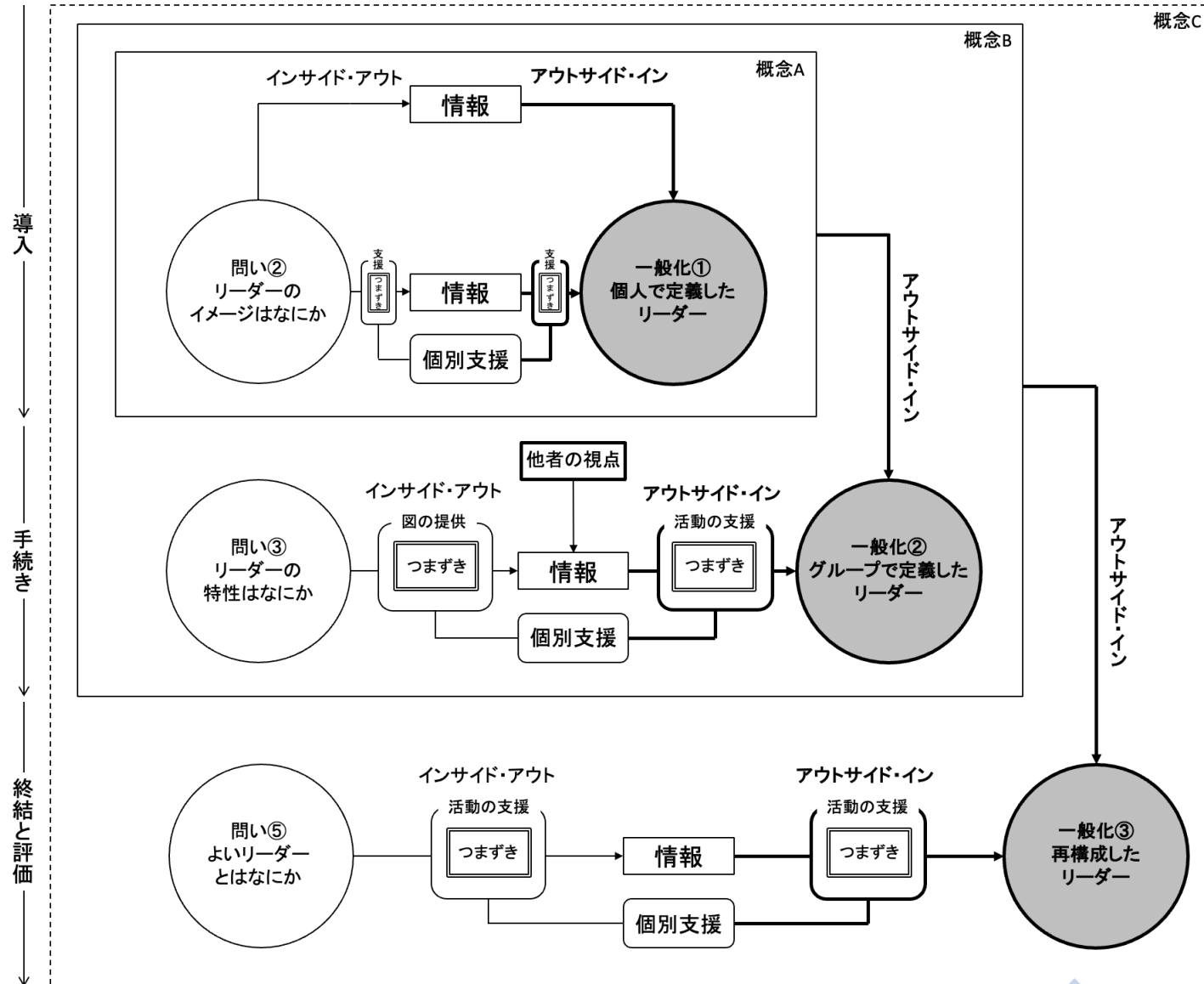
## アウトサイド・イン 情報（事例）に基づき一般化



## インサイド・アウト 問いに基づき情報（仮説）生成



# 社会科におけるビッグアイデアの具体例（プレジデンシャルリーダーの構成）





### 授業方略としてのビッグアイデア

切実な問いを活用し、演繹と帰納を往還して、事実に知識を超えた**自分ごととしての理解・実感**を、子どもの考えを活かしながら、すべての学習者に保障する方略



### インクルージョンへの寄与

特別な場所での「特別支援」ではなく、一般カリキュラムへの**実質的なアクセスと、すべての子どもの概念構成**を通じて、教室全体の学びを豊かにして社会参加へ導く営み



### 日本への示唆

社会科教育における包摂は、**概念学習と個別支援に根ざす授業設計**を通じた市民育成の必要性を示唆。



Action for Tomorrow

## 日本の教育現場へ導入するなら

- 🕒 次時の授業に「切実な問い」を1つ導入する
- 🕒 評価基準の柔軟な調整を試行する

Toward Inclusive Social Studies



K-12

# ビッグアイデアを用いた研究・教育

(ビッグアイデア活用の留意点)



<https://www.socialstudies.org/conference/vital-issues-panels/c3-first-decade>

## S. G. グラント (S. G. Grant)

元ビンガムトン大学大学院社会科学教育教授  
ミシガン州立大学 (Ph. D)

専門：歴史教育、教師研究

研究概要：

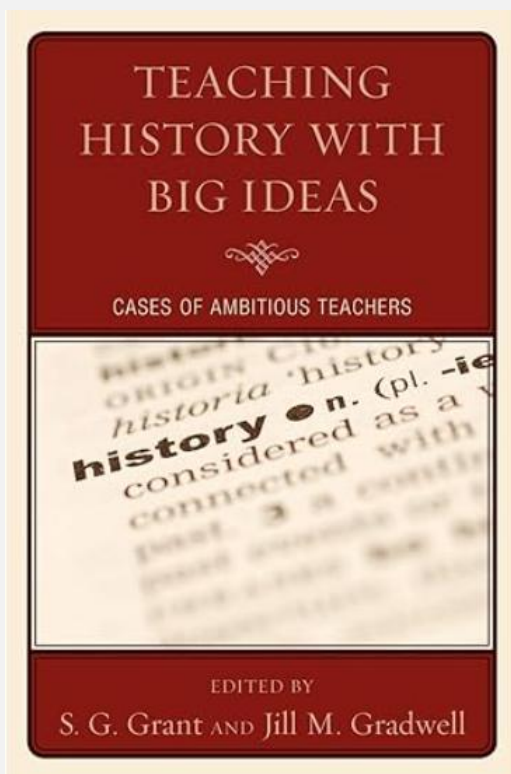
- ・ハイステイクステスト下の教師の抵抗と葛藤
- ・野心的な教育に関する歴史教師の研究

# ビッグアイデアを用いた研究・教育

## (ビッグアイデア活用の留意点)

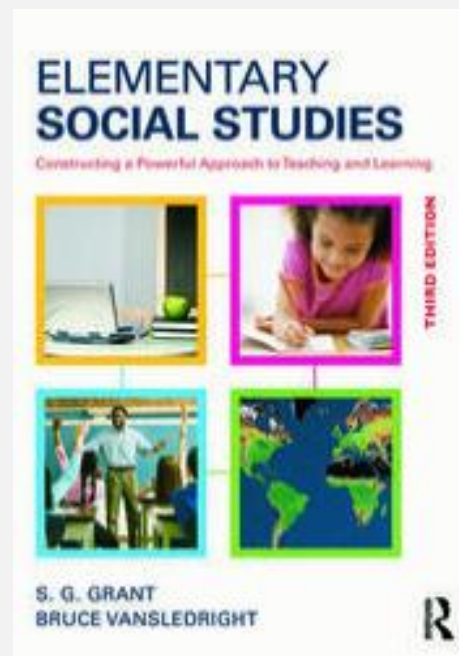
### ① 野心的な教育 (ambitious teaching)

【中等歴史】

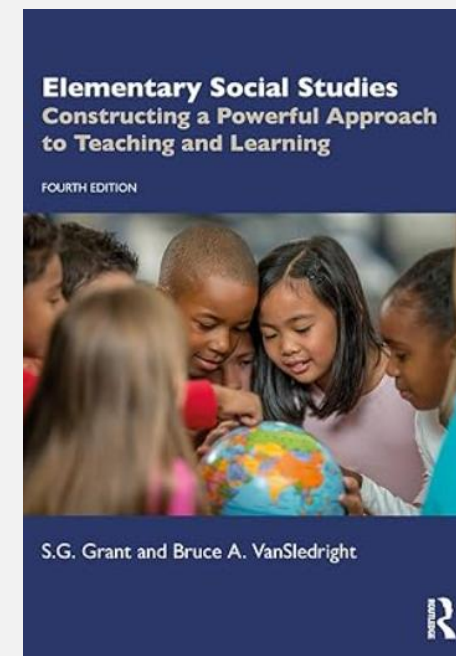


<https://www.amazon.com/Teaching-History-Big-Ideas-Ambitious/dp/1607097664>

### ② 『初等社会科』 (第3版2014・第4版2020)



<https://www.taylorfrancis.com/books/mono/10.4324/9781315883601/elementary-social-studies-grant-bruce-vansledright>



<https://www.taylorfrancis.com/books/mono/10.4324/9781003013808/elementary-social-studies-grant-bruce-vansledright>

# ビッグアイデアを用いた研究・教育

(ビッグアイデア活用の留意点)

【中等歴史】

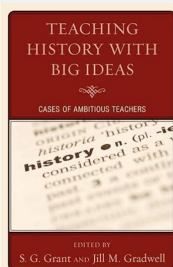
## ① 野心的な教育 (ambitious teaching)

ハイスティクステスト下の教育において、**教科内容**、**生徒**、**州の政策**、**同僚**や**管理者**などは実践を混乱させる可能性があるかと仮定し、よりよい実践を構築するために抗う教師に焦点

(Grant & Gradwell, 2009; 2010)

### 【分析枠組み】

- 1) 教科内容に関する知識
- 2) 学習者に関する知識
- 3) 文脈に関する知識



<https://www.amazon.com/Teaching-History-Big-Ideas-Ambitious/dp/1607097664>

## ② 『初等社会科』 (第3版2014・第4版2020)

ビッグアイデアを中核として実践することを目指す初等社会科のテキスト

### ※ビッグアイデア

教師が何をどのように教えるかを決定する手助けとなる**問い**や**一般化**

(2006/2009/2014)

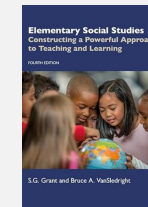
### ▼一般化の罫 (2020)

→**問い**に焦点化

C3フレームワーク



<https://www.taylorfrancis.com/books/mono/10.4324/9781315883601/elementary-social-studies-grant-bruce-vansledright>



<https://www.taylorfrancis.com/books/mono/10.4324/9781003013808/elementary-social-studies-grant-bruce-vansledright>

# ①野心的な教育 (ambitious teaching)

【中等歴史】

- ・ ショーマン (Shulman, 1987) の教師の教科内容や生徒に関する知識に関する教師研究を発展させ、とりわけハイステイクステストによって教育実践が支配されるという**教師が働く文脈**こそ重要であるとする

(Grant & Gradwell, 2010)

## 1) 教科内容に関する知識

例) ホロコーストと現代のジェノサイド (2週間) / アフリカの歴史 (なぜアフリカについて何も知らないのか?) ↔ 州カリキュラム

## 2) 学習者に関する知識

例) 抽象的な考え → 日常生活で遭遇しそうなジレンマへ変換 / 現代の宗教紛争を歴史的淵源に結びつける / 個の犠牲者の物語に焦点

## 3) 文脈に関する知識

例) 中核的な概念を教えること ↔ インクルーシブ教育の経験不足、州テストのプレッシャー、挑戦的な課題への生徒からの反発

(Grant & Gradwell, 2009)

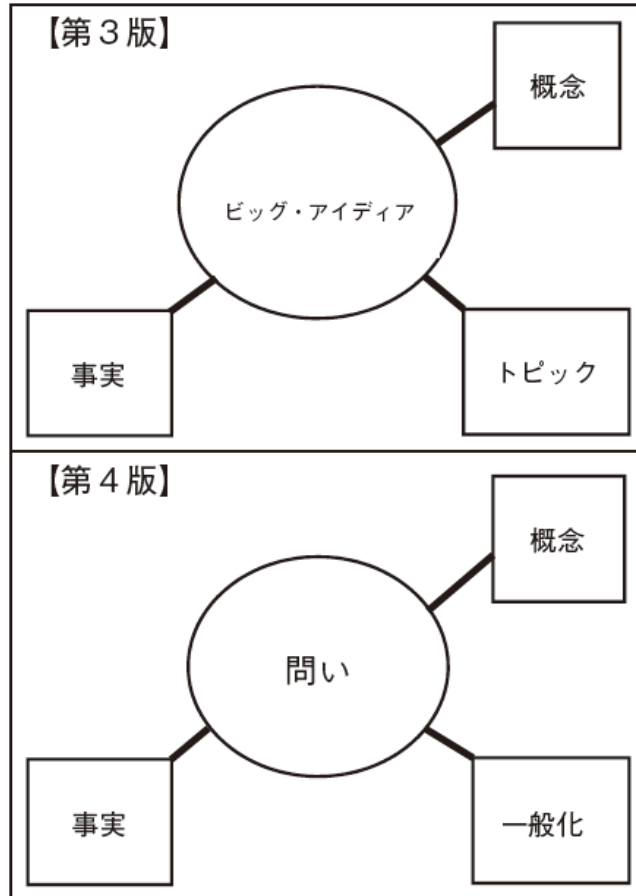
深い教科知識、生徒への理解、教える際の困難な状況の相互作用が野心的な教育を成立させているか

# ①野心的な教育

(ビッグアイデアに基づく実践事例)

	学校の文脈	学年	学校教科	経験年	単元トピック	ビッグアイデアに基づく実践メソ
Mike Meyer	第二環状郊外の高校	10	世界史と地理	5	古代アフリカ文明	<p>【教科内容】「なぜ私たちはアフリカについて何も知らないのか？」 (←州試験がヨーロッパ人到来以前の文明に深入りしていない)</p> <p>【学習者】大きなテーマで教え、ファシリテーターとして振る舞う。KWL チャート、一次資料、生徒作成のパワーポイント、最終エッセイなど。</p> <p>【文脈】州試験のプレッシャー、挑戦的な指導法への生徒の抵抗</p>
Meg Sampson	都市部のチャーター高校	10	世界史と地理	1	世界史試験対策講座	<p>【教科内容】州試験に追加支援が必要な生徒に対して、テーマ別の 大きな概念を中心に単元設計。州文書の見出しには従う。</p> <p>【学習者】「自分たちの生活に関連させる」過去の出来事と現在の出 来事が現代の思想や感情に根差していることを示す(パートン&amp;レヴス ティク(2004)の分析的立場) 【文脈】州試験の不合格者への指導</p>
Sarah Foels	第二環状郊外の中学校	8	合衆国史と地理	3	南北戦争	<p>【教科内容】「奴隷制は必要悪だったのか、単なる悪だったのか？」年 代順ではなく、人物や出来事を基にしたテーマで単元を構築。</p> <p>【学習者】生徒の日常体験と歴史的対立を結び付けて授業を実施。 抽象的な考えは生徒を威圧する可能性があるため、比喩や類推で。</p> <p>【文脈】障害のある生徒に対して、一般化や抽象的な概念をどう扱え ばよいのか。通常学級と特別支援学級で共通の教材で教えること。</p>
Andrew Beiter & Joseph Karb	地方の中学校	8	合衆国史と地理	12 & 9	ジェノサイド	<p>【教科内容】「大量虐殺の『レシピ』を構築する」州試験で1問のみで あることに対して、単元に2週間の時間を割り、生徒の世界観に影響 を与えることを目的。ホロコーストの原因、抵抗者と傍観者、現代性。</p> <p>【学習者】数ではなく、ホロコーストの個々の犠牲者の物語に焦点。ホ ロコーストと普通の学校の廊下で起きていることとの関連性。</p> <p>【文脈】標準化された評価、教員研修、雪による休校日。</p>
Mary Beth Bruce	第一環状郊外の高校	11	AP 合衆国史	7	南北戦争後の復興期	「復興:アメリカ未完の革命?」「復興:再統合への競争か、終わらぬ闘いか?」(略)
Julie Doyle	地方の高校	10	世界史と地理	3	帝国主義	「先住民は帝国主義から利益を得たか?」(略)
Tricia Davis	都市部チャーター高校	9	世界史と地理	10	先住民とヨーロッパ人の出会い	指導的な質問の開発とライティング指導(略)

## ②『初等社会科』の比較 (第3版2014・第4版2020)



(堀田, 2021)

- 第3版では、**事実、概念、トピック**を統合したものとして「**ビッグアイデア**」が描かれ、それをもとにカリキュラムを設計する

※**ビッグアイデア**: **問い**の形式と**一般化**を含んだもの

- 第4版では、**事実、概念、一般化**を統合したものとして「**問い**」を中心にカリキュラムを構築する

※**一般化**: 一連の条件をまとめた大まかな表現であり、

特定のアイデアを広く語り、新たな解釈を表現するための観念

例) 「農村部の生活はシンプルである」

⇔ステレオタイプを生んでしまう可能性

## ②『初等社会科』の比較 (第3版2014・第4版2020) ——カリキュラムづくりの方法

### 第3版

1. 関心のある**問い**、課題、観念から始める
2. 一連の**問い**を自身に投げかける
3. あなたの**ビッグアイデア**を表現する
4. **単元マップ**を作成する

### 第4版

1. 関心のある課題や観念から始める
2. **生徒に関連した一連の問い**を自身に投げかける
3. **Compelling Question**を作成する
4. **Compelling Question**がいかにあなたの探究に反映されるのかを考え始める

# Compelling Questionとは？(日本の場合)

- 草原(2014; 2016a; 2016b; 2017)

C3フレームワークが学問的厳格性と生徒のレリバンスを高める点で有効であることが描かれるも、問いの解釈に焦点化されていない

- 草原らの共同研究(2018)

「本質的問い」と訳され、問いの機能については具体事例をもとに言及されるも、essential questionとの区別はなされていない

- 山田(2018)

「切実な問い」と訳され、暗黙的にessential questionとの区分がなされるも、機能の違いについては言及されていない

- 草原・川口(2021)

「やむにやまれぬ問い」「のっぴきならない問い」と訳され、「強制的」という意味や機能から脱していない

- 渡部・井手口(2020)

問いの構造化を中核とした単元設計論を提案しており、「本質的な問いessential question」の課題について言及している

# C3フレームワーク(2013)

- 「**本質的な問い Essential Question**」への疑義
  - 1) essentialという語のイメージから何か一つの崇高の目的に向かっている印象を与えてしまう
  - 2) 教室における学習を想定した場合、すべての教室のすべての生徒にとって正しい問いとみなされてしまう
  - 3) 社会科で取り上げられるトピックは、本質的な問いだけでなく、複数の観点からの問いによって多様な側面から探究がなされるべき

(Grant, et al., 2017, 45-46)

# C3フレームワーク(2013)

- 「**核心的な問い Compelling Question**」構想の理由
  - 1) 問いの性質として、**概念理解以外の多様な問いのあり方を保障する必要がある**
  - 2) すべての生徒に対応可能な汎用的な問いではなく、**特定の生徒に向けた問いでなければならない**
  - 3) 教師が社会科の教室で用いる問いとは、**教師の個性によって多様な探究を保障する魅力的な問いでなければならない**、同時に**生徒の生活に密着した問いである必要がある**

(Grant, et al., 2017, 45-46)

# Compelling Questionの類型

類型	定義	事例
大きな問題	ケーススタディを通して大きな問題を評価する	正義とは何か？
ケーススタディ	観念、行動、状況を深く見つめる	印刷機は過去を保存したのか、それとも未来を発明したのか？
個人化	現実の世界とつながる機会を提供する	なぜ私が責任を負わなければならないのか？
分析的	観念、出来事、現象の構成要素の次元を調べる	工業化によってすべての人の生活がよくなったのか？
比較	複数の現象の構成要素を分析・比較する	アメリカ人はどうすれば幸せになれるのか？
評価	問題についての判断を求める	アメリカ独立戦争は避けられたのか？
問題解決型	社会問題の解決策を提案する	国家安全保障の名の下に、自由が犠牲になってよいのか？
言葉遊び	異なる意味の言葉や観念を並べる	自由貿易は対価に見合うものなのか？
皮肉	観念の水面下の意味を考える	偉大なことはよいことなのか？
ミステリー	答えのない質問の要素を追いかける	マンハッタン買収の本当の理由は？

# Supporting Questionの類型

類型	定義	事例
年代順 Chronological	補助的な問いは時間軸に沿って順序付けられる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス・インディアン戦争は、イギリスと植民地住民の関係をどのように変えたか？</li> <li>2. イギリスの政策は、アメリカ植民地における緊張をどのように煽ったか？</li> <li>3. 植民地の反応は、緊張をどのように煽ったか？</li> <li>4. 戦争を回避するためにどのような努力がなされたか？</li> </ol>
学際的 Multidisciplinary	補助的な問いは学問分野ごとに順序付けられる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダー賃金格差を正確に算出する上での課題は何か？</li> <li>2. ジェンダー賃金格差が時代とともに変化した理由は何か？</li> <li>3. ジェンダー賃金格差が最も顕著な地域はどこか？</li> <li>4. 男女賃金格差に対する政治的解決策は存在するのか？</li> </ol>
学問的 Disciplinary	補助的な問いは単一の学問分野内で順序付けられる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奴隷制廃止に向けどのような法的措置が取られたか？</li> <li>2. 奴隷制を終わらせた主体について歴史家はどのような議論を展開しているか？</li> <li>3. 奴隷制終結の主体をめぐる議論が示す含意は何か？</li> </ol>
事例主導型 Example-driven	補助的な問いは現象の事例を説明するために順序付けられる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケニアにおける開発の影響は何か？</li> <li>2. ボツワナにおける開発の影響は何か？</li> <li>3. アルジェリアにおける開発の影響は何か？</li> <li>4. 開発はアフリカ各国で異なる影響を与えているか？</li> </ol>
対照的視点 Contrasting perspectives	補助的な問いは問題に対する異なる見解を明らかにするために順序付けられる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プエルトリコはどのようにしてアメリカ合衆国の領土となったのか？</li> <li>2. プエルトリコは州昇格または独立を得るためにどのような取り組みをしてきたか？</li> <li>3. プエルトリコの州昇格または独立を支持する主張は何か？</li> <li>4. プエルトリコの州昇格または独立に反対する主張は何か？</li> </ol>

第5学年プエルトリコ探究学習

<b>Compelling Question</b>	プエルトリコは州になるべきか？			
<b>Social Studie Standards and Practices</b>	政府：西半球の政治体制は、時代や地域によって構造や組織が異なっている。 ✓証拠の収集・活用・解釈    ✓比較と文脈化    ✓地理的推論			
<b>Staging the question</b>	理解する：プエルトリコの州昇格に関する 2012 年の投票について議論する。			
<b>Supporting Question 1</b>	<b>Supporting Question 2</b>	<b>Supporting Question 3</b>	<b>Supporting Question 4</b>	
Understand	Assess	Act	Act	
プエルトリコはどのようにしてアメリカ合衆国の領土となったのか？	プエルトリコは州昇格または独立を得るためにどんな取り組みをしてきたのか？	プエルトリコの州昇格または独立を支持する主張にはどのようなものがあるか？	プエルトリコの州昇格または独立に反対する主張にはどのようなものがあるか？	
<b>Formative Performance Task</b>	<b>Formative Performance Task</b>	<b>Formative Performance Task</b>		
プエルトリコがアメリカ合衆国の領土となった経緯について、一段落で説明しなさい。	プエルトリコの歴史における州昇格運動に関連する出来事を時系列で整理し、注釈を付加した年表を作成し、そのプロセスにおける次の段階を検討しなさい。	プエルトリコの州昇格／独立問題について、プエルトリコの州昇格に賛成する主張と反対する主張を用いて討論しなさい。		
<b>Featured Sources</b>	<b>Featured Sources</b>	<b>Featured Sources</b>	<b>Featured Sources</b>	
資料 A：パリ条約より抜粋 資料 B：地図バンク：1878 年から 1898 年までの中米・カリブ海の政治的変遷	資料 A：図表バンク：プエルトリコにおける 1967 年、1993 年、1998 年、2012 年の州昇格住民投票の結果	資料 A：「プエルトリコの問題とは何か？」より抜粋 資料 B：「州権問題」より抜粋	資料 A：「プエルトリコの州昇格が有害な理由」より抜粋 資料 B：「プエルトリコの州昇格には慎重な対応が必要：H.R. 856 法案がもたらす高コストで混乱を招き、論争を呼ぶ影響」より抜粋	
<b>Summative Performance Task</b>	論証：歴史的資料からの具体的な主張と関連証拠を用い、対立する見解を認めつつ、核心的な問い (compelling question) に答える論証 (例：詳細なアウトライン、ポスター、エッセイ) を構築しなさい。			
	追加課題：プエルトリコの州昇格問題に関して提示された多様な立場を要約した討論の報告書を作成しなさい。			

第12学年男女間の賃金格差に関する探究学習

Compelling Question	男女間の賃金格差について、どう対処すべきか？			
Social Studie Standards and Practices	グローバル経済におけるアメリカ資本主義の影響:世界には様々な経済システムが存在する。米国は競争を特徴とし、政府の経済への関与が限定的な混合自由市場経済の中で運営されている。資本主義システム下では、経済政策立案者は失業、インフレ、貧困、環境への影響といった重大な課題に直面している。グローバル化はこれらの課題の複雑性を著しく増大させ、米国経済における労働者と起業家に強力かつ変革的な影響を及ぼしている。 ✓証拠の収集、活用、解釈 ✓年代順推論と因果関係 ✓経済学と経済システム ✓地理的推論 ✓市民参加			
Staging the question	イコール・ペイ・デイ (Equal Pay Day) が宣言された背景にある理由と、その存在意義に関する賛否両論の主張を調査する。			
Supporting Question 1	Supporting Question 2	Supporting Question 3	Supporting Question 4	
Understand	Understand	Understand	Assess	
男女間の賃金格差を正確に算出する際の課題は何ですか？	なぜ男女間の賃金格差は時代とともに変化してきたのか？	男女間の賃金格差が最も顕著なのはどこなのか？	男女間の賃金格差に政治的な解決策はあるのか？	
Formative Performance Task	Formative Performance Task	Formative Performance Task	Formative Performance Task	
男女間の賃金格差を正確に算出する際の課題を列挙しなさい。	男女間の賃金格差が縮小したものの、依然として解消されていない理由を説明する段落を書きなさい。	図式化ツールを用いてデータを要約し、地域レベル、州レベル、国家レベルにおいて男女間の賃金格差が最も顕著な場所を説明しなさい。	証拠に基づいて、賃金格差に対する政治的解決策があるかどうかを説明する主張を書きなさい。	
Featured Sources	Featured Sources	Featured Sources	Featured Sources	
資料 A: 男女賃金格差の説明(抜粋) 資料 B: 画像バンク:男女賃金格差を示すグラフと図表	資料 A:「男女賃金格差比率、1955-2013年、フルタイム労働者」グラフ 資料 B:「男女賃金格差:女性の到達点は限界か?」(抜粋) 資料 C:「女性の雇用・教育・家族を変革した静かな革命」(抜粋)	資料 A:画像バンク:男女賃金格差に関する人口統計データを示すグラフ 資料 B:「女性の賃金が男性の賃金に占める割合」図表 資料 C:ニューヨーク州議会選挙区別の男女の中央値所得を示す表	資料 A:「上院は賃金公平法を可決すべきか?」 資料 B:「州の最低賃金引き上げは女性の公平な賃金を促進する」	
Summative Performance Task	論証:男女間の賃金格差について、どのような対策を取るべきか?現代の情報源から得た具体的な主張と関連する証拠・情報を用いて、この重要な問題に取り組む議論(例:詳細なアウトライン、ポスター、エッセイ)を構築しなさい。 追加課題/行動:地域紙または全国紙向けに論説記事を執筆し、男女間の賃金格差問題への対応策を主張せよ。その論拠として、経済的、歴史的、地理的、政治的要因を分析し、論旨を裏付けること。			

# ビッグアイデアから問いへの変化の意味

- 『初等社会科』第3版(2014)と第4版(2020)の変化  
→ビッグアイデアから問いへの重点変化

〈理解中心の場合〉

理解・統合・まとめる【内面化】

〈問い中心の場合〉

ずらす・迷わせる・対立を露呈する・立場を分岐させる【政治化・公共化】

→問い中心への転換は、理解中心の心理主義化からの脱却となるのでは？

# 小括

- 社会科におけるビッグアイデアは、概念**理解**や**問い**の形で表現され、どちらかと言えば後者の意味合いが強い
- アメリカ社会科におけるビッグアイデアの消失現象は、理解の統合モデルの限界を示している
- ビッグアイデア活用の観点から言えば、**理解中心**か、**問い中心**か、の教師のカリキュラムづくりにかかっている
- その含意は、教師が「よい授業」をつくろうとすればするほど「**理解中心**」のモデルに近づくが、社会科の政治性を喪失させてしまう。一方、「**問い中心**」のモデルに足場を置くことで対立を可視化し、立場をずらし、事象の本来の姿をもとに共に考えていくことができる

# 主な参考文献

- Grant, S. G., & Gradwell, J. (2009). The road to ambitious teaching: Creating big idea units in history classes. *Journal of Inquiry & Action in Education*, 2(1), 1-26.
- Grant, S. G., & Gradwell, J. M. (2010). *Teaching history with big ideas: Cases of ambitious teachers*. R & L Education.
- Grant, S. G., Swan, K., & Lee, J. (2017). *Inquiry-based practice in social studies education: Understanding the inquiry design model*. Routledge.
- Grant, S. G., & VanSledright, B. A. (2014). *Elementary social studies: Constructing a powerful approach to teaching and learning* (3rd ed.). New York, NY: Routledge.
- Grant, S. G., & VanSledright, B. A. (2020). *Elementary social studies: Constructing a powerful approach to teaching and learning* (4th ed.). New York, NY: Routledge.
- 早瀬 博典 (2020). 「アメリカ社会科における『インクルージョン』の授業方略 — T. Lintnerの『ビッグアイデア』を分析して —」. 『社会科教育研究』, 140, 27-39.
- 早瀬 博典 (2025). 『アメリカ社会科のインクルージョン理念と方略』. 東信堂.
- Herczog, M. M. (2010). Using the NCSS national curriculum standards for the social studies: A framework for teaching, learning, and assessment to meet state social studies standards. *Social Education*, 74(4), 217-224.
- Herczog, M. M. (2013). The links between the C3 framework and the NCSS national curriculum standards for social studies. In National Council for the Social Studies (ed.), *Social studies for the next generation: Purposes, practices, and implications of the college, career, and civic life (C3) framework for social studies state standards* (pp. xxvii-xxix). Author.
- 堀田諭 (2015). 「教師のゲートキーピングを支援する社会科スタンダードの構成原理—米国における新旧NCSSカリキュラムスタンダードの機能の原理的転換—」 『社会科研究』82, 25-36.
- 堀田諭 (2021). 「スタンダード時代の社会科カリキュラム構築における問いの再評価とその課題—新旧『初等社会科』の観念から問いへの変化が意味するもの—」 『埼玉学園大学紀要人間学部篇』21, 217-230.
- 草原和博・川口広美 (2021). 『学びの意味を追究した中学校公民の単元デザイン』明治図書.
- Lintner, T. (Ed.). (2011). *Practical Strategies for Teaching K-12 Social Studies in Inclusive Classrooms*. Information Age Publishing.
- Lintner, T., & Kumpiene, G. (2017). Social studies instruction for students with mild disabilities: An (updated) progress report. *Journal of Social Studies Research*, 41(3), 201-210.
- MacPhee, D., & Lintner, T. (2012). From social studies to social action for a disability inclusive world. *Social Studies Research and Practice*, 7(3), 108-119.
- Minarik, D., & Lintner, T. (2016). *Social Studies & Exceptional Learners*. NCSS.
- 文部科学省 (2025). 『次期学習指導要領に向けた内容の重点化・構造化のあり方について(中間まとめ)』. 文部科学省.
- National Council for the Social Studies. (2010). *National Curriculum standards for social studies: A framework for teaching, learning, and assessment*. Silver Spring, MD: Author.
- National Council for the Social Studies. (2013). *The college, career, and civic life (C3) framework for social studies state standards*. Silver Spring, MD: Author.
- 佐藤 貴宣 (2019). 「インクルージョン実践における[排除]の可能性」. 『教育学研究』, 86(2), 287-299.
- Swan, K., Lee, J., & Grant, S. G. (2018). *Inquiry design model: Building inquiries in social studies*. Silver Spring, MD: National Council for the Social Studies & C3 Teachers.
- UNESCO. (1994). *The Salamanca Statement and Framework for Action on Special Needs Education*. UNESCO.
- Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). *Understanding by design* (Expanded 2nd ed.). Washington, DC: Association for Supervision and Curriculum Development.
- 渡部竜也・井手口泰典 (2020). 『社会科授業づくりの理論と方法——本質的な問いを生かした科学的探求学習』明治図書.
- 教育課程企画特別部会 (第14回) (20260202) 「【資料2-1】各教科等WGにおける資質・能力の構造化等に関する検討状況」 ([https://www.mext.go.jp/content/20260202-mxt-kyoiku-000047088\\_04.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260202-mxt-kyoiku-000047088_04.pdf); 2026年3月4日最終閲覧)
- 教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキング (第3回) (20251217) 「社会・地理歴史・公民における目標・見方・考え方、高次の資質・能力の在り方等について」 ([https://www.mext.go.jp/content/20251217-mxt\\_kyoiku01-000046371\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20251217-mxt_kyoiku01-000046371_03.pdf); 2026年2月27日最終閲覧)